

重点的に取り組む事項

4-1 懇談会のスケジュール

第1回(平成28年12月26日)

【議題】

- 地球温暖化の現状と本市の温室効果ガス排出状況
- 取組状況
- 改定方針案
- 目標の種類と評価指標

第2回(平成29年4月28日)

【議題】

- 次期計画の構成案
- なごやの現況とめざす将来像
- 温室効果ガス排出量の削減に向けた見通し

第3回(平成29年7月上旬)

【予定】

- 重点施策
- めざす姿に向けた取組、評価指標
- 適応

第4回(平成29年10月中旬)

【予定】

- 素案(原案)

素案作成(平成29年12月)

策定・公表(平成30年3月)

4-2 次回懇談会の内容（2030年度に向けた取組）

緩和

重点取組

- 【1】 低炭素なまちづくり
- 【2】 エコライフに向けた取組
- 【3】 環境に配慮したビジネススタイル
- 【4】 環境エネルギー
- 【5】 ひとづくり

主な取組

- ① 駅そば生活
- ② 風水緑陰生活
- 「住」生活
低炭素
 - ③ 移動
 - ④ 住宅・建築物
 - ⑤ 事業・産業・技術
 - ⑥ 環境エネルギー
- ⑦ 担い手づくりと協働

適応

背景、基本方針、基本的な進め方、分野別の取組、今後の取組

4-3 重点的に取り組む事項① 低炭素まちづくり

現状

- 国の地球温暖化対策計画において、自治体による低炭素型都市づくりが要請されている。

これまでの取組

低炭素モデル地区事業の支援

2014年度に低炭素モデル地区事業として、「みなとアクルス開発事業」及び「錦二丁目低炭素地区まちづくりプロジェクト」の2事業を認定。

2事業が、今後のまちづくりの好事例となるよう、事業特性に応じた技術情報の提供などを実施しながら全市レベルでの低炭素な開発事業を誘導。

※ 低炭素モデル地区・・・自然環境との調和を保つ先進的な低炭素技術による駅そば生活など、低炭素なまちと暮らしの姿を市民・事業者具体的に示す地区

検討課題

- 低炭素モデル地区の活用も含めた、低炭素まちづくりの一層の促進をどのように進めていくか。
- リニア開業に向け、名駅地区での環境配慮とその見える化をどのように進めていくか。

4-4 重点的に取り組む事項② 家庭

現状

- 基準年度比で温室効果ガス排出量3割以上増加、エネルギー消費量約3割増加
↑ 世帯数の増加、家庭用電気機器の普及、電力原単位の悪化
- 2030年度までに家庭部門の温室効果ガスを2013年度比で約4割削減(全国)

これまでの取組

EXPOエコマネー (市民の環境配慮行動を促す仕組み)

環境にやさしい行動をした方にポイントを付与し、ポイント数に応じて、エコ商品との交換や植樹に寄付することができる。



ポイント発行数低下のため今年度見直し

環境デーなごや (市民と協働を推進する仕組み)

市民・事業者・行政の協働のもと、よりよい環境づくりに向けて具体的な行動を促す環境イベント。区ごとの「地域行事」と久屋大通公園での「中央行事」を開催。

検討課題

- 2030年度の大規模な排出量削減に向け、どのような取組を実施すればよいか。

4-5 重点的に取り組む事項③ 事業者

現状

- 基準年度比で「オフィス・店舗」部門の温室効果ガス排出量3割以上増加、エネルギー消費量2割以上増加
 - ↑ オフィス・店舗等の床面積が増加、電力原単位の悪化
- 2030年度までに民生業務部門の温室効果ガスを2013年度比で約4割削減(全国)

これまでの取組

地球温暖化対策計画書制度 (大規模事業所向け)

一定以上のエネルギーを使用する事業場を対象に、対策計画書の届出及び公表を義務付け。

省エネ訪問相談 (中規模事業所向け)

事業者環境推進員が事業所を訪問し、業態別の省エネ手引書を活用して、省エネに関するアドバイスや情報提供を実施。

エコ事業所認定制度

環境に配慮した行動に積極的に取り組む事業所を「エコ事業所」、さらに優れた取り組みを実施する事業所を「優良エコ事業所」として認定。特に優秀で模範な事業所を表彰。

検討課題

- 2030年度の大幅な排出量削減に向け、どのような取組を実施すればよいか。

4-6 重点的に取り組む事項④ 環境エネルギー

現状

- 太陽光発電について、固定価格買取制度の追い風を受け導入を増やしてきたが、買取価格の下落に伴い伸びが鈍化

これまでの取組

設置費補助

住宅用太陽光発電設備、太陽熱利用設備の設置費補助を実施。

また、建物ごとに太陽光発電・太陽熱利用設備を設置した場合の推定発電量等を地図上に表示するウェブサイトを公開。

公共への積極的な導入促進

リース方式により、大清水処分場及びなごや生物多様性センターに太陽光発電設備の設置。

小中学校等の市施設の屋根を太陽光発電事業を行う事業者へ貸し出し。

検討課題

- 買取価格の下落や補助金財源の限度がある中、今後どのように太陽光発電の導入を促進していくか。
- 環境にやさしいエネルギーとして期待される水素エネルギーの利活用をどのように図っていくか。

4-7 重点的に取り組む事項⑤ ひとつづくり

現状

- ESD世界会議の開催都市として、率先して担い手づくりに取り組む必要がある。

これまでの取組

次世代環境学習の推進

次代を担う子どもたちの各段階に応じた、環境学習の支援、情報提供を実施。

エコパルの改修

環境教育の拠点施設である「エコパルなごや」の老朽化したバーチャルスタジオや展示室等の改修を実施。(～30年度)

環境学習プランの策定

ESDユネスコ世界会議を契機として、環境保全に積極的に取り組む人材の育成を目指した行動計画を策定。

検討課題

- 環境問題を「自分ごと」として行動につなげるとともに、その輪を拡大していくために、どのような取組を進めていくべきか。